

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アイテム演習 帽子	各部の名称、形と素材の種類、頭蓋型や採寸方法など帽子の一般知識を習得し、素材の特徴に合ったデザインの発想、トリミング（装飾）など、全体のバランスを考える。 ブレード、夏物帽体、冬物帽体、コットン芯など帽子専門の材料の特徴を理解し、木型や専門道具を使用して制作。 基礎作図・基礎作図からの展開方法、仮縫い、縫製方法、生地や芯の扱い方を理解し布帛の帽子を制作。	1・通年	120	4		○		○				
○			アイテム演習 ジュエリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジュエリー・アクセサリ商品の基礎知識の習得。 ・ ジュエリー制作における金属素材の扱いと基礎的技法の習得。 ・ ジュエリー制作における用具の扱い方を制作実習にて習得する。 ・ ジュエリー・アクセサリ商品取り扱い店舗（高級店舗、低価格店舗、繁盛店舗、注目店舗）における市場調査による商品研究。 	1・通年	120	4		○		○				
○			アイテム演習 バッグ	バッグの基礎知識と製作技術および皮革素材の基礎技法の習得。作品は①布と革の曲げまちバッグ、②基礎縫い制作。 バックル、ナスカン付きショルダーベルト、カシメ、ハトメ、ホック付きブレスレット、ファスナー付きポーチ、ファスナーポケット部分縫い③縫い返しバッグ。デザイン、型出し、型紙、裁断、革すき、縫製、仕上げ、発表。作品制作以外に、バッグの機能・構造についての講義やショップリサーチレポート等。	1・通年	120	4		○		○				
○			アイテム演習 シューズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本デザイン（モカシン・パンプス）の制作及び設計技術の基礎を習得する。 ・ 用具、製靴用機械の取扱い方法を実習にて習得する ・ 履物の起源及び歴史、靴の構造、足の構造の概論を学ぶ 	1・通年	120	4		○		○				

○			自由研究 I	<p>各課題や個人の自由実習。通常授業以外の制作をすることによる、各個人のレベルアップ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブランド研究（帽子・ジュエリー・バッグ・シューズ等のブランド、企業の研究） ・ 文化祭バザー作品のグループ制作 ・ 各種コンテストの参加 ・ 美術館、博物館等の見学 	1・ 通年	60	2				○	○	○	○		
---	--	--	--------	--	----------	----	---	--	--	--	---	---	---	---	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ハンディクラフトⅠ	各種のクラフトテクニックを、エンブroidアリーと布の加工に大別し、基礎的なテクニックを幅広く学習する。特に、帽子・バッグ・シューズ・アクセサリー等のグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習させる。併せて、学習したテクニックが使われている実際の商品などの資料を集め、ブックの形式で完成させる。それにより、テクニックだけにとらわれない応用性を身につけさせる。	1・通年	60	2			○	○		○		○
○			造形演習	ファッショングッズの各専門分野において必要とされる造形感覚、審美眼の育成と造形・デザインの展開とその方法論の享受を教育目標とする。一般的な造形・デザインに対しての基本的理解と造形能力を高めるために重要な理論的解釈、また、造形言語と呼ばれる表現要素の認識とその利用方法の理解と探求を通じ、独自の表現に昇華する事を目標とする。	1・通年	60	2		○		○		○		
○			色彩論・演習	ファッション分野のクリエイションで色彩を活用することを想定し、基本的な配色方法を中心に色彩の基礎を学習する。	1・通年	60	2	○		△	○		○		
○			デッサンⅠ	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	60	2				○	○		○	
○			ファッションデザイン画	・衣服のイメージ、バランスを読み取る力・表現する力を習得する ・衣服の構造、縫製を理解しデザイン画として表現し共有することができる ・ファッショングッズを引き立てる着装画としての表現力	1・通年	60	2				○	○		○	

○				グラフィック クワーク I	Photoshop・Illustrator初心者を対象とし、Photoshopでは、画像の切り抜き・合成ができるようになることを目標とする。Illustratorでは、マップのレイアウトデザインができるようになることを目標とする。	1 ・ 後 期	30	1				○	○	○			
---	--	--	--	------------------	---	------------------	----	---	--	--	--	---	---	---	--	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服飾造形	服飾造形としての一般知識、原型の理解、縫製の基礎を理解させる。 シャツ・ブラウスの衣服製作を通して、衣服構造を理解し、ファッショングッズとのコーディネートも関連させ指導する。 服飾造形の基礎、シャツ・ブラウスの基礎知識、縫製	1・前期	60	2			○	○		○		
○			服装解剖学	人体の形態や構造を解剖学的に認識させ、人体を機能的で美的に表現できるファッショングッズ造りを目的とする。 全身のプロポーションを理解し、ファッショングッズ製作に生かすための計測法の説明を行い、機能面からデザイン発想まで結びつけられるように学習させる。	1・後期	30	1	○		△	○		○		
○			素材論	繊維素材（各種繊維・糸・布地・染色加工）の種類・性質について基礎的な知識を習得させる。さらに繊維素材製品の展開などにも関連させ知識を深めることを教育の目標とする。	1・後期	30	1	○			○		○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○		○		
○			クリエイション演習	デザインの基本を踏まえながら、学生の創造力・発想力を豊かにしていく。年間を通して平面～立体～空間と、考える領域を変化させて授業を展開していく。個人作業とグループワークを織り交ぜ、現代社会での重要性が増しているコミュニケーション能力も鍛えていく。	1・通年	30	1		○		○		○		
○			特別講義 I	専門科目、通常科目の他に学外の専門講師による講義や、他分野の講師による講義を通じ、幅広い知識を得て視野を広げると同時に、個々の目的とする職能を確認し位置づける。	1・通年	60	2	○			○		○		

○			校外研修 I	<p>都会生活から離れた「自然の中」における野外活動、体育活動ほか諸活動など団体生活の体験を通じ、指導力や協調の精神を養い、個人相互、クラス間の親睦を深めることを目的とする。</p> <p>規律を強調がいかに人間関係に潤いを与え、楽しい物であるかを知り、一人一人が規律正しい健康的な団体生活を送れるよう心がけ、相互理解を深める。</p>	1・前期	30	1			○	○	○		
合計				18科目	1140単位時間(38単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学年の学期区分	前・後期	
	1学期の授業期間	15週	

授業科目等の概要

(ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			バッグ デザイン I	・マチの種類を理解した上でのバッグのデザイン、そのデザインに合わせた立体の作り方、型紙の作り方、縫製方法を習得する。	2・通年	120	4			○	○		○		
○			バッグ パターンメイキング I	・実務で必要な図面の描き方を習得する。 ・皮革用ミシン、革漉き機の操作方法を習得する。 1. 横まち基本型 2. 通しまち基本型 3. ソフト応用デザイン	2・通年	120	4			○	○		○		
○			バッグ 制作実技 I A	4. スワローまち基本型 5. バザー作品 6. スワローまち応用デザイン 7. 外縫い横まち基本型 8. 外縫い帯まち基本型 9. " 応用デザイン 36 コマ	2・前期	90	3			○	○		○		
○			バッグ 制作実技 I B	10. 小判底基本型	2・後期	120	4			○	○		○		
○			バッグデザイン論	・バッグのデザインの方法、考え方の習得 ・仕事としての商品企画（デザイナーの仕事）について理解する ・商品企画力を身に付ける	2・通年	30	1	○				○		○	
○			バッグ素材論	バッグに使用する素材の知識を深める。各素材の専門企業による講義で、専門的な知識を習得する。 バッグ用材料販売店 店舗訪問（校外授業）／金具・ファスナーについて 浮田産業(株)／繊維素材について トップラン(株)／皮革素材について 神戸レザークロス(株)／素材の加工について 展示会見学／レザーフェア見学 (株)協進エル／タンニンなめし革、染料について	2・通年	30	1	○				○		○	

○			<p>バッグハンドワーク</p> <p>前期 革素材による手縫いの基本をマスターさせ、手縫いによる小物(財布、持ち手等)ができるほどのレベルにもっていく。 後期 手縫いの技法のいくつかを応用し、デザイン、パターン、製作ができるほどのレベルにもっていく。</p>	2 ・ 通 年	90	3			○	○	○			
○			<p>自由研究Ⅱ</p> <p>各教科目を基に、さらに高度な技術と創造性を磨く為に、個人テーマにより研究する。 ◆各種コンテスト YKKファスニングアワード／台東デザインアワード／TLF革のデザイン展／文化服装学院ファッションコンテスト 服飾工芸部門／その他関連コンテスト ◆美術館、博物館等の見学 ◆個人テーマによる作品制作 ◆コラボレーション企画への参加</p>	2 ・ 通 年	60	2			○	○	○	○		

授業科目等の概要

(ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ハンディクラフトⅡ	ハンディクラフトⅠで学習したクラフトテクニックの応用。エンブroidリー・布の加工の他にレースのテクニックも含めより高度で広範囲なテクニックの習得を目指す。バッグなどの皮革製品への応用を念頭に、よりクリエイティブな力を養うことを目標とする。	2・前期	30	1	△		○	○		○		○
○			デッサンⅡ	静物デッサン・石膏デッサン等を通して物当然の原理・性質を理解し、描写力を養うことによって創造力の基底とする。	2・前期	30	1			○	○		○		
○			バッグデザイン画Ⅰ	バッグを立体物として捉えて描くため、立方体・円柱・楕円など基本的な立体の描き方を繰り返し練習し、段階を追ってバッグの構造を理解しながら複雑なデザイン、形状まで描けるようになることを目標とする。 また、水彩、パステル、マーカーによる材質表現テクニックを習得する。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			造形デザイン	ファッション工芸科の各分野において必要とされる立体造形に関する感覚を養成し、広く様々な造形経験を通じて、造形的なセンスと構成力を研鑽することが教育目標となります。一般的な造形・デザインから発展した様々な造形行為への理解を基調に、追体験と実験的製作を通して個人の主張する表現が遂行出来ることを目標とします。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			グラフィックワークⅡ	グラフィックワークⅠ修了者を対象として、Photoshopでは、連続柄の作成・デザイン画の着彩ができることを目標とする。 Illustratorでは、ペンツールでオリジナルデザインが描けるようになることを目標とする。	2・通年	60	2	○			○		○		

○		ファッションマーケティング	マーケティングの基本を学び、市場の細分化とその特徴を理解する。 マーケティングのプロセスにそって、市場に適合したブランド設計を行い、目的を実現させるための戦略について学ぶ。	2・通年	60	2	○			○	○		
○		西洋服装史	古代から現代までの時代背景や美術をふまえ、服飾やバック、鞆、帽子、アクセサリーのデザインの流れについて学ぶ。 また20世紀以降は各時代のデザイン様式、映画、写真、音楽の歴史変遷にも触れ、なおいっそうのファッションへの理解を深める。	2・後期	30	1	○			○	○		

授業科目等の概要

(ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリア開発 (コミュニケーション)	将来を考えるテーマについて、「聴く」「書く」「話す」などのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを講義+実習を通して身につけさせる。	2・前期	30	1			○	○		○		
○			キャリア開発 (就職対策)	学生が志望する就職先に内定するために必要な「就職力」を講義+実習を通して身につけさせる。	2・後期	30	1			○	○		○		
○			特別講義Ⅱ	多方面にわたる講師の講義を通して、広い視野と高い専門性、豊かな人間性について学ぶ。	2・通年	60	2	○		△	○			○	
○			校外研修Ⅱ	企業訪問、工場見学、美術工芸品の見学や歴史的文化にふれることにより、感性を磨き豊かな創造性と深い知識を養う。 ○企業、工場見学 ・豊岡かばん企業 1社、ファスナー・金具企業 1社 ・兵庫県姫路市 タンナー 2社 ・シューズメーカー ・ビーズ工場 ・帽子企業 ○グループ研修 ・神戸市内 ○レポート提出	2・前期	30	1	○				○	○		
		○	インターンシップ ^a	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事の内容を認識するとともに、学校教育では授業できない実務を学ぶ。また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上をはかる。●研修先/バッグ、靴業界の企業 ●期間/1週間～2週間 (受け入れ先企業により異なる) ●研修内容/実務作業補助 (デザイン、製作、営業、生産管理など) 研修内容は受け入れ企業により組まれる。	2・後期	30	1			○		○		○	

合計	19科目	1140単位時間 (38単位)
----	------	------------------

授業科目等の概要

(ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 2019年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			バッグデザインⅡ	2年次までの基礎知識を基に、さらに高度なデザイン力、パターンメイキング力、縫製テクニックの習得を目指し、企業で即戦力として活躍できるスキルを身につけることを目標とする。作品テーマごとに基本作品(全員同じ形)を制作し、新しい知識・技術の習得を行い、それを活かしながら応用、発展させた作品制作を行う。また、素材についても様々な方法で加工を施しオリジナリティーの追及を目指していく。(基本作品5点、応用作品9~10点)	3・通年	180	6			○	○		○			
○			バッグパターンメイキングⅡ	現役職人の外部講師による専門知識・技術の習得も行う。(財布、ブリーフケース)	3・通年	180	6			○	○		○			
○			バッグ制作実技ⅡA		3・前期	120	4			○	○		○			
○			バッグ制作実技ⅡB		3・後期	150	5			○	○		○			
○			革小物制作実技	革小物(財布、カードケース等)の基礎知識と、専門的な縫製テクニックの習得を目標とする。 小物制作特有の革漉きや縫製準備、マシン縫製など制作実習を通して学ぶ。また、就職先業界の製造現場で使用している裁断機(クリッカー)を使用した裁断実習を行い、機械の使用方法を身に付ける。	3・前期	30	1			○	○		○			
○			バッグマーチャライジング	1. 実際のマーチャライザーの業務内容を通して、マーチャライジング計画の重要性と理解を深める。 2. 各自でマップや計画書を作成し発表することで、実践力とプレゼンテーション力を養う。	3・通年	60	2	○			○			○		
○			バッグデザイン画Ⅱ	バッグデザインワークのうえで即戦力として使えるデザイン画の習得。就職活動に活用できるポートフォリオ(作品集)作成、及び創作デザインの企画構成力を目指して。	3・前期	30	1			○	○			○		

○			デザイン ディレク ション	1つのパーツから繋がり様々な形に変化する事は生命が細胞の集まりだという事と同じである。 自分の好きな形を1つ決める。幾何学的でクールな形でも有機的な形でもOK！サイズや厚み素材、色は自由。 その形だけを使ってバッグ、靴、帽子、アクセサリーを作る。余裕があれば服まで制作も構わない。 それらの作品を記録し自分のブランドとして冊子を作り、展示方法を考えていく。	3 ・ 通 年	60	2			○	○		○		
○			コンピュー タワーク	1. Wordの操作方法を習得し、ビジネス文書の作成力を身につける。 2. Excelの操作方法を習得し、関数や計算式を利用して効率よくデータを分析する力を身につける。	3 ・ 後 期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッショングッズ専門課程バッグデザイン科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジュアル プレゼン テーション	・VPの社会的な役割を理解し、コンセプトやイメージに基づいたプランニング～実行までの作業を行う。 ・「作品」を「商品」として捉えることでよりビジネスに近い提案方法を実践する。 ・ピンワークのテクニックを学びVPや作品作りに活かす。	3・前期	30	1	○			○		○		
○			染色・プリント技法	バック・シューズ制作の新たな発想の手がかりとなるよう、何種類かの染色・加工法を抜粋し指導する。 その基本的な知識と技法を実習をとおして習得させる。	3・前期	30	1			○	○			○	
		○	英会話	初歩の英文法を学習している学生対象のコース。ファッション関係のトピックを中心に英語表現に慣れ、初歩の会話の運用ができるようになる事を目指す。	3・通年	60	2			○	○			○	
○			特別講義Ⅲ	ファッション全般に渡る、トレンド情報やプロダクトデザイン。また、グッズに関わるクリエイターや企業デザイナーの仕事。特殊材料やその活用方法などの、多方面にわたる講師による講義や演習を通し、専門科目のより一層の充実を図ることを目標とする。	3・通年	60	2	○			○			○	
		○	インターンシップ ^b	就業体験を通して、実践の現場から業界の仕事内容を確認し、働くことの厳しさや社会人としてのマナーを身につけると共に、希望する職種と合致しているのかを確認し、就職の対する意識の向上をはかる。	3・後期	30	1			○	○			○	

○	卒業研究・ 創作	卒業制作発表展示に向けて表現力、創作力を高め、また企画、運営する能力を養うことを目標とする。 3年間の集大成として、各自が研究テーマを設定し、4～5点のシリーズで作品をデザインし創作する。また、展示発表を通して企画、運営方法とチームワークの重要性を学び、帽子・ジュエリーデザイン科、シューズデザイン科と共に展示発表する。	3・ 後期	120	4			○	○	○				
合計		13科目	1080単位時間(36単位)											
合計		51科目	3360単位時間(112単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学年の学期区分	前・後期	
	1学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。